

# 宜野湾市大山「大山田いも生産組合」

生産  
部門

## 都市化のなかで、水辺環境を守るふるさとづくり (平成16年度認定)



大山地区は、開発が進む宜野湾市のなかでも、急速に市街地化してきた西海岸に隣接しているが、今でも、のどかな田園風景を維持した、唯一残された集団農地である。

ターンム栽培の第1条件である湧水が豊富で、年中一定の水温を保ち、常に県内1、2位の生産高を誇っている。

かつては、稲作が中心で、ターンムは農家の副業として栽培していた。その後、高価で貴重な換金作物として認められ、昭和40年代に本格的な栽培に切り替わってきた。

ターンムは、県内では子孫繁栄を祈念する縁起のある食物として、旧正月など祝いの席上の料理として欠かせないが、年中需要があるため、地域では収穫期を変えて供給できるように対応している。

田いも生産組合は、60世帯余の農家で成り立っており、共同防除、共同作業、栽培技術の情報交換等、地域が一体となって生産している。市の産業まつりにおいて、品評会を開催し、ターンムの品質の向上に取り組むほか、婦人部によるターンム料理、ムジ(茎)料理の開発にも取り組んでいる。

また、地域の子どもたちを対象としたターンムの植え付け・収穫体験を実施し、農作業を通じた教育活動にも力を入れている。

